

人物図鑑

ねむろを愛する
素敵な人たちしおり
栞に込めたふるさと
の香りを届けたい押し花サークル
山茶花さざんか

代表

高岡たかおか敏子としこさん
(63)

幸せの場面に香り漂う花束の数々。その思い出をいつまでも残したいと、押し花の作品作りに取り組むのは「押し花サークル山茶花」の皆さんです。

6年前に、公民館主催の成人学校の一講座として開かれた押し花教室の受講者が、サークルを結成。当初から講師を務めている福田明子さんの指導により、花絵額や置物そしてコースターなど、多彩な作品を手掛けています。

代表の高岡敏子さんも、押し花の魅力にひかれた一人です。「思い出の花を押し花にすることで、いつまでもその時のことを思い出すことができます。それを楽しみに、手間暇をかけてできた押し花が鮮やかに仕上がったときには、次の作品への意欲もわいてきますね。」形や大きさの違う草花を押し花にするには、そ

の草花の特徴を知り、重しの重さを変えていくなどの経験も必要になります。そして、湿気を嫌う押し花の保管が一番重要だと言います。

「根室は草花の宝庫です。お花屋さんにある花だけではなく、道路わきや庭先に咲く草花も押し花作りには絶好の素材となります。かわいい花や珍しい花を見つけると押し花にしてみたくありませんね。」押し花に出会って、高岡さんをはじめ会員の皆さんが、小さな草花にも興味を持ち大の花好きになったようです。

そんな山茶花の皆さんの協力で、平成20年から始まった「根室市ふるさと応援寄付金」に寄付を寄せられた方々に、根室の草花などを使った押し花の栞を送ることになりました。 「根室を知る方々は、本当に根室を愛しています。根室の草花から『ふるさと』を感じていただければうれしいですね。」と、栞作りに取り組む高岡さんからは優しい笑みがこぼれます。

白鳥や花咲ガニを型取った葉やハクサンチドリ、ユキワリコザクラなどの可憐な花をあしらひ、一枚一枚に心を込めた栞からは『ふるさと根室』の香りがあふれます。